

# 2008 年度事業報告

< 2008 年 4 月 1 日 ~ 2009 年 3 月 31 日 >

## ．概要

ESD-J は、2003 年設立年度から 2005 年度にかけての三年間は、ESD を推進するための基盤整備を行なう期間と位置づけ、民間レベルでの ESD に関する情報発信の基盤と、国内外の担い手のネットワーク構築に取り組んだ。また、政府に対しては ESD 推進体制の構築（ESD 推進本部と円卓会議の設置）と実施計画の策定に関する政策提言を行い、それらの実現に貢献した。

そして、2006 年からの 3 年を第二期とし、国および地域レベルの「ESD 推進に必要な支援を提供できる仕組み」を模索し、そのビジョンを形成するための期間とし、ESD の実践モデルづくりと政策提言づくりに取り組んできた。

2008 年度は第二期 3 年目にあたるが、地域・政策・国際のそれぞれの主要事業で大きな節目を迎え、これまでの活動の成果をとりまとめ発行する年となった。

### < 地域プロジェクトの主な発行物 >

『ESD テキストブック 2 実践編 希望への学びあい - なにを、どう、始めるか?』

『未来をつくる学びをはじめよう 地域から学ぶ・つなぐ 39 のヒント』（環境省事業）

### < 政策提言プロジェクトの主な発行物 >

「「学び」から未来を創造する社会へ ESD-J 14 の政策提言」

「G8 北海道洞爺湖サミットへの提言 - 持続可能な社会へのメカニズムづくりを急げ」

### < 国際プロジェクトの主な発行物 >

『AGEPP アジアの ESD ハンドブック 持続可能な社会を、地域から、市民が育む』

『AGEPP Handbook for ESD in Asia Local Citizens Fostering Sustainable Societies』

（ほかに電子版：インドネシア語、ヒンディ語、中国語、韓国語）

とりわけ、テキストブック及び政策提言の策定に関しては、全国 7 箇所地域ワークショップを開催し、会員や地域の実践者の声を反映することができた。また、自治体（安城市、やんばる三村）や企業との協働で、ESD の実践モデルづくりにも取り組むことができた。これらの成果は、第三期の活動の方向性を示すもの、展開のツールとなるものとして生かしていく予定である。

国際的な動きとしては、2009 年 3 月 31 日から 4 月 2 日にかけて、ユネスコとドイツ政府による DESD 中間年国際会合（ボン）が開催され、代表理事の阿部がその企画のためのアドバイザー・コミッティに参加、会合には阿部に加え ESD-J 理事・佐藤、事務局・野口（立教大学 ESD 研究センターとの共同派遣）、会員数名が参加した。この国際会合に向け、ESD-J は官民共同の「ジャパンレポート」の作成を円卓会議で働きかけ、政府発行ではあるがレポート発行を実現させた。また、この会合では、2014 年の最終会合が日本で開催されることが決定した。

また、組織運営では 12 名の新理事体制がスタート。国連機関や国の機関など、組織の成り立ち上 ESD-J の会員にはなれない組織とのネットワーク強化を図るために連携交流団体への参加を働きかけた。また、ボランティアやインターンシップの活躍の場づくりなどにも取り組んだ。そして、メールマガジンの発行・ウェブサイトの運営などを通して、会員以外の組織・個人からのアクセスを増やしつつある。

## 事業活動

### 1. 地域ネットワークの形成および交流支援事業

---

【ミッション】 地域（市・町・村・県・ブロック）で ESD 推進の仕組みづくりのサポートをする

【2008 年度の目標】

- ・これまで収集した事例、共同実施した事業などから、地域で ESD に取り組むときに役立つ考え方・ノウハウ・ツールなどをとりまとめ、提供すること及びその作成プロセスに地域の ESD の担い手の参画を促すことによって ESD 推進に貢献する。
- ・自治体が ESD に取り組むよう具体的な働きかけを進める。

【事業内容】

- 1) 『わかる！テキストブック 2 実践編 希望への学びあい - なにを、どう、始めるか？』発行  
これまで収集した事例、共同実施した事業などから、ESD に取り組むときに役立つノウハウ・考え方などをとりまとめ、テキストブック（A5 サイズ、104 ページ、配布版：800 冊、販売用：4000 冊発行）を作成・発行した。この制作プロセスにおいて、地域ワークショップ（7ヶ所、185 名参加）、全国ミーティングで実践事例を深め、実践者との対話を深めることができた。
- 2) 環境省 ESD 促進事業全国事務局  
14 のモデル地域の 3 年間の取り組みをもとに、ESD の特徴的なプログラム、ESD を推進する仕組み、そのノウハウ、地域の ESD を支援する施策等を抽出し、地域の ESD 推進のヒント集『地域から学ぶ・つなぐ 39 のヒント』（B5 版 36 ページ、2000 部）を制作・発行した。また、ESD 推進のために必要な全国レベルの機能・施策の提案を行った。  
\* ヒント集や報告書、事業の成果などは、環境省ウェブサイトにて公開：  
<http://www.env.go.jp/policy/edu/esd/index.html>
- 3) ESD 全国ミーティングの開催  
ESD の今を共有し、これからの議論する場、及びテキストブックで紹介される事例をベースに ESD 実践の視点やノウハウを深める場として、2009 年 2 月 21・22 日、東京にて開催した。  
（参加者：136 名 各日 100 名程度、事例発表団体：9 団体、パネル展示団体：17 団体）
- 4) 自治体における ESD 推進（参照：研修 1）

### 2. 政策提言および調査研究事業

---

【ミッション】 政府、地方自治体、国際機関等を通じて、ESD を推進する仕組みを作る

【2008 年度の目標】

- ・ESD-J が目指す ESD の 10 年の達成目標の明確化と、それを実現するための取り組み、仕組み、施策、スケジュール等の策定
- ・G8 サミットや ESD の 10 年中間年国際会合（ボン）に向けての政策提言の策定と発信
- ・日本の ESD の取り組み状況の把握と分析（国際的な取り組み状況なども踏まえて分析）
- ・2010 年の国内実施計画見直しに向け、政府の ESD の取り組み強化と、官民および学社連携による ESD の推進強化のための政策の提言
- ・ESD の政策の実効性を高めていくためのネットワークづくり

#### 【事業内容】

- 1) 「「学び」から未来を創造する社会へ ESD-J 14 の政策提言」を作成  
会員からの意見募集や、全国7か所(熊本、愛媛、大阪、名古屋、東京、仙台、札幌)での地域ワークショップ(185名参加)などを通して「ESD推進のための4つの方策と14の政策提言」をとりまとめ、公表。ESD-JとしてDESD後半に向け取り組むべきテーマや実現すべき政策を明確化することができた。
- 2) G8に向けた提言活動(参照:国際2)
- 3) 政府のESD推進体制強化および「ジャパンレポート」発行に向けた提言活動  
2009年3月開催のDESD中間年国際会合(ボン)に向け、内閣官房のイニシアティブの強化と、官民協働による「ジャパンレポート」の発行を、円卓会議や国会議員に働きかけた。その結果、政府発行であるが「ジャパンレポート」が作成され、ボン会合にて配布された。また内閣官房のウェブサイトにもESDサイトが開設された。  
\* 「ジャパンレポート」は政府発行となったものの、日本のESDの特徴や地域の取組、企業の取組、後半に向けた取組方針などについて、ESD-Jとしての意見をある程度反映させたものが、政府の公式レポートとして発行されたことには意義がある。
- 4) 議員連盟や野党との勉強会の実施  
ESD推進議員連盟の幹事会、および民主党の環境・文科合同勉強会で、ESD推進に関する意見交換を行った。

### 3. 研修および普及啓発事業

---

【ミッション】 ESDの理解推進、地域での活動を広げ、つなぐための研修および啓発事業を行う

#### 【2008年度の目標】

- ・自治体、企業、大学等と協働で、ESD研修を開発・モデル実施する
- ・ファシリテーターやコーディネーターなど、ESDの担い手の整理と、その育成方法について検討する

#### 【事業内容】

- 1) 自治体向けESD研修事業  
自治体を中心とした地域における「持続可能な地域づくりに向けた研修」の開発と実施を行った。2008年度は愛知県安城市の「環境首都安城プロジェクト」、沖縄やんばる(国頭・大宜味・東)における持続可能な地域づくりに向けた研修事業などを通じて、自治体が主体的に進めるESDのあり方を探った。
- 2) 企業向けESD・CSR研修事業  
企業における人材育成やCSR教育のあり方を積極的に提案し、また関心のある企業との協働実施に取り組んだ。(経団連企業とNGOとの交流会出展、経済同友会NPOメッセ出展、日能研 職員向けESD講座、CSR研究会でのESD講義・ワークショップ開催など)
- 3) ESDカフェ事業  
ESDに関する実践者をゲストに招き、ESDについて参加者と共に学びながら考えるESDカフェを開催し(8月29日、9月19日、10月29日、11月28日、1月29日)のべ100名の参加者を得た。また、カフェの運営にはインターンや学生ボランティアが、企画、告知、準備、実施、報告などを担った。

#### 4) 各種講師派遣事業

行政や教育委員会などの依頼に応じて研修や講演会などの講師派遣を受託し、計 25 件の研修、講師派遣を実施した。また、ESD-J 理事が、ESD-J 理事として直接実施した講座・研修は 53 件となっている。

	市民向け イベント	市民向け 講座	学生向け 講座	教員向け 研修	行政職員 向け研修	海外参加者 向け研修
ESD-J 受託	5	4	3	6	3	4
ESD-J 理事受託		15	12	4	2	3

ESD コーディネーター養成研修事業は、異なる立場のコーディネーターに、その意義や大切な視点、未来に向けたビジョンなどをヒアリングすることができたが、ESD コーディネーター養成研修のあり方の検討は、体制的に対応ができず次年度へ持ち越しとなった。

## 4. 情報収集・提供および出版事業

【ミッション】 ESD および ESD-J に関する情報の収集・発信を通じて、会員内外へ ESD および ESD-J の理解を促進し、ESD 活動の活性化を図る

### 【2008 年度の目標】

- ・地域リポーター制度、環境 goo との連携事業等を通して情報収集・発信体制の強化、情報ソースの多様化を実現する
- ・ウェブサイトによる情報提供の強化につとめ、年間アクセス数を 48 万ページビューから 60 万ページビューに増やすことを目指す
- ・メールマガジンの発行やウェブの強化を通して、会員外への情報発信の質と量を高めることで、ESD-J の社会的な存在価値を高め、ネットワーク基盤を強化することに努める
- ・地域 PT・国際 PT・研修 PT と連動し、それぞれの成果をハンドブックやブックレットの形態で発行し、ESD の取り組みの周知・促進に努める

### 【事業内容】

#### 1) ウェブサイトの充実

ESD の認知度向上、理解促進を活発にするために、恒常的に情報発信が可能なウェブサイトのリニューアルを図り、情報の充実と見せ方の工夫、コンテンツ管理の効率性向上を図った。結果としてアクセス数が大幅に増加した（48 万ページビュー / 年 73 万ページビュー / 年）。

#### 2) メールマガジンの発行

非会員に向け ESD の認知度向上や ESD-J のウェブサイトへのアクセス向上を目指し、国内外の ESD の取組や、政府の動き、ESD を進める上でのノウハウ、関連イベントなどさまざまな情報を、1700 名以上の非会員へ、年間で 13 通のメールマガジンを発行した。

#### 3) 「ESD レポート」の発行

年間で 4 号（8 月、10 月、12 月、3 月、A4 版、8 ページ、各 6000 部）のレポートを発行した。コンテンツとしても、コーディネーターインタビューや身近な ESD、お薦め情報など、より地域の実践者の要望に応えるコンテンツを充実させた。記事と ESD カフェとのメディア連携も図った。

4) 「ESD-J2008 活動報告書」の発行

ESD-J の活動の成果をプロジェクトチームごとに整理し、発信する。今年度の報告書は、より多くの方に読んでもらうため、成果について重点的ページ数を絞り発行した。(A4 版、46 ページ、1000 部)

5) 『わかる！テキストブック 2 実践編 希望への学びあい - なにを、どう、始めるか?』発行  
(参照：地域 1)

## 5. 国際ネットワーク推進事業

---

【ミッション】 ESD に関する情報の国際的な受発信の窓口となり、ESD を推進する国際的な NGO ネットワーク (特にアジア太平洋地域を中心として) の形成と促進を図る

【2008 年度の目標】

- ・アジア 6 カ国語 web サイトを完成し、今後継続的にアジアで ESD に実践を共有できる仕組みを作るとともに、AGEPP の成果を日英でとりまとめ発行する。
- ・ESD の 10 年中間年国際会合に向けた我が国からのメッセージを取りまとめる
- ・AGEPP その他の国際的活動の成果を踏まえつつ、ESD-J としての国際戦略の中間見直しを行う。

【事業内容】

1) アジア ESD 推進事業 (Asia Good ESD Practice Project : AGEPP)

アジア地域における ESD 事例の収集・発信、および各国の ESD を推進する NGO との連携をめざす 3 年プロジェクト。今年度はプロジェクトの最終年度にあたり、7 か国 32 事例を掲載する 6 カ国語 web サイトを完成させた (システム変更に伴い、現在、コンテンツの移動作業中。7 月中には移動完了の予定)。またアジアのパートナー NGO との最終国際会合を、2008 年 11 月 8~10 日の日程で開催、これまでの取り組みを振り返り、収集した事例の ESD の視点について議論した。以上をとりまとめ、「アジアの ESD ハンドブック」(日・英版各 2000 部、中・韓・インドネシア語データ版)を発行。3 年間の AGEPP 事業で、アジアの NGO とのネットワークの基礎を築くことができた。

2) G8 に向けた提言活動

AGEPP のパートナー NGO および ESD 関連の国連・国際機関と共に、G8 北海道洞爺湖サミットおよび G8 環境大臣会合に向けて、持続可能な社会づくりへの各国のコミットメントと ESD への取り組みを促す提言を作成した。提言内容は冊子 (12 ページ、日英合体版 2000 部) 簡易版リーフレット (4 ページ、日英合体版 1000 部) 普及版リーフレット (4 ページ、日 5000 部、英 1000 部) にまとめ、国際シンポジウム (5 月 3 日 at 国連大学) や G8 サミット NGO フォーラム、プレスリリースなどを通して社会へアピール。また、環境省・外務省の担当に働きかけ、G8 サミット成果文書や G8 環境大臣会合などの成果文書に、ESD が盛り込まれた。

3) 国際機関とのネットワーク作り

在日の国連機関や、政府開発援助などに関連する公的組織と、ESD や持続可能な開発関連情報を交換しあう「連携交流団体」関係を構築。JICA 地球ひろば、JICA 地球環境部、国連情報センター (UNIC)、国連大学高等研究所 (UNU-IAS) と情報交流を開始。

4) ESD 関連国際情報の国内への発信、国内 ESD 情報の海外への発信

ユネスコを中心とした、国際的な ESD/DESD に関連する情報を、ウェブサイトやヒアリングなどを通して収集し、日本国内に、ウェブ、メールマガジン、機関誌などを通して発信。DESD 中間

年会合である、ESD 世界会合に向けたユネスコの動向や、世界各地の情報について、積極的に情報を発信した。また、ESD の 10 年中間年国際会合（ボン）に向けたジャパンレポートの作成に一部貢献した（参照：政策 3）。

#### 5) 英文ウェブサイトの充実

日本語のウェブサイトのリニューアルに伴い、英文のウェブサイトをリニューアルに着手した。項目を整理し、知りたい情報にアクセスしやすくするとともに、発信情報が分類されて蓄積されるようにした。新しいサイトの公開は 2009 年 6 月末の予定。

#### 6) 環境省 NGO 連携連絡会合

アジア地域で国際協力を進める日本の NGO/NPO と環境省の協力のあり方を探る NGO 連携連絡会合の企画・運営を受託し、「ESD」（3 月 6 日）、「持続可能な地域づくり」（3 月 12 日）それぞれのテーマで実施した。各テーマにおける NGO の活動状況や課題を共有し、アジア地域における有効な NGO による国際協力や政府による支援のあり方を検討した。「ESD」の会合には、インドから CEE が、国内から ESD および国際教育協力をすすめる 12 団体が参加。「持続可能な地域づくり」の会合には、インドネシアより BINTARI 財団が、国内から環境保全、村落開発、国際保健など多様なテーマの 15 団体が参加した。

当事業は事業計画策定後に公募があり、ESD-J の主旨に沿うものとして、事業計画に追加された。

## . 会議等

### < 総会 >

通常総会 6 月 28 日(日) 立教大学太刀川記念館

### < 理事会 >

第 1 回理事会 5 月 31 日(土) 立教大学 10 号館 208 会議室

第 2 回理事会 12 月 20 日(土) 立教大学 12 号館 6F 会議室

臨時理事会 1 月 29 日(木) (社)日本環境教育フォーラム会議室

(議案:借入金の増額および未来舎(未来バンク)からの借入について)

第 3 回理事会 3 月 7 日(土) 立教大学 12 号館 6F 会議室

### < PT リーダー会議 >

第一回 8 月 4 日(月) 立教大学 12 号館 6F 会議室

第二回 10 月 20 日(月) 立教大学 12 号館 6F 会議室

第三回 12 月 1 日(月) 立教大学 12 号館 6F 会議室

## . 会員・理事・事務局等 (2009 年 3 月末現在)

### < 会員 > ( )内は 2008 年 3 月末の数

団体正会員 87 団体(94 団体) 個人正会員 112 名(99 名)

団体準会員 13 体(11 団体) 個人準会員 193 名(163 名)

賛助会員 5 団体(5 団体)

連携交流団体 4 団体

### < 理事 >

代表理事 阿部治

副代表理事 重政子

理事 池田満之、大島順子、大前純一、佐藤真久、清水悟、新海洋子、枚本育生、  
鈴木克徳、竹内よし子、森良

< 監事 >

浅見哲、吉岡睦子

< 顧問 >

池田香代子、岡島成行、廣野良吉、坂本尚、CWニコル、松浦晃一郎、水野憲一、三隅佳子

< 事務局 >

事務局長 村上千里

スタッフ (常勤) 佐々木雅一、齋藤浩司

(非常勤) 野口扶弥子、相良洋子